

特集にあたって

温故知新；先人の経験から学ぶ

企画・構成 市橋亮一 Ichihashi Ryoichi
(医療法人かがやき 総合在宅医療クリニック理事長)

新年を迎えるにあたり、どのような学びを始めるのがよいのかを考えた。

最新の治療に対する情報はたくさんカバーされているが、日々の患者と相対するとき、本当に自分の「こころに残る学び」は、うまくいかなかった過去を深く顧みることではないか？ そこで2019年1月号では、日本各地で在宅医療に取り組むさまざまな先輩たちに、これまで自身が体験した失敗(学びになった出来事)と、それをどのようにとらえて、学びの機会に変えていったのかについての執筆をお願いし、そこから学ぶ特集を企画させてもらった。

「ピットフォール(落とし穴)と、そこから学ぶべきエッセンス」

それをコンパクトにまとめたのが本企画である。

今回執筆を依頼した皆さんは、各地で在宅医療を深く実践している人たちである。普段、そのように活躍をされている先人たちをみると、一見完璧である(ようにみえる)。しかしそれぞれにお話を伺ったとき、若き日に自分自身が教えられた忘れられない出来事があると口にされる。

今回の特集では「失敗」という言葉を用いているが、必ずしも「失敗」というにはそぐわない出来事もある。また、「後から考えれば間違っていた」ということがあるが、その時点では思いつくことが難しかったこともある。それらを惜しみなくここに共有してくださった先輩たちの度量の大きさに感謝したい。

この一つひとつのエピソードと考察から、「どのような流れでそのピットフォールに遭遇したのか」「そこから何を学び、自分たちの診療・看護のなかの“知恵と工夫”につなげていったのか」、後に続くわれわれとして学びとることができればと思っている。

また今回の特集では最後のまとめとして、「私の格言」として言葉をいただくフォーマットにした。今後この格言を思い出し、よりよい在宅医療への学びにしてもらいたい。そしてぜひここから何かを発見し、さらに今後皆さんが作る次の時代への道標としてほしい。